



凡事徹底

当たり前のことを当たり前

蕨市立第二中学校
学校だより
令和6年度
第11号(3月号)



講演会で学んだこと

校長 椿 智絵

3月を迎え、春の訪れを感じさせる日が増えてきました。早いもので今年度もいよいよ残り1か月を切りました。3年生は、ほとんどの生徒が入試を終え、3年間の集大成である卒業式に向けて準備を進めています。今年度の卒業式は3月14日です。3年生にとっては中学校で過ごす日々が残り少なくなってきました。1日1日を大事に過ごして、有終の美を飾ってほしいと思います。

さて、先日、仙台育英高校硬式野球部の須江航監督の公演を聞く機会がありました。須江監督と言えば、2022年に夏の甲子園で仙台育英を優勝に導いた監督です。優勝監督インタビューの「青春って、すごく密なので。」はその年の流行語特別賞を受賞するなど話題になりました。

須江監督は北浦和生まれの比企郡鳩山町出身だそうで、埼玉県と縁のある方でした。自己紹介の中での、「甲子園で優勝し、地元に戻ってきたときに、東北の皆さんが『おめでとう』ではなく、『ありがとう』と声をかけてくれた。」という言葉がまず印象に残りました。今でも復興に関わるボランティア活動を部として行っており、昨年度起こった能登半島地震の際にも募金活動を行ったり、被災した野球部を元気づけるために招待試合を行ったりしていました。

講演で特に印象に残ったのは、

「成功から学べることはほんの少ししかなくて、失敗が自分の人生を好転、良くさせる。失敗したなって思ってることは挑戦したってことだから、そこにすごく価値がある。」

「勝ちと負けでは、負けの方が学ぶことがたくさんある。優勝したらそこで終わり。何で勝ったのかを分析することはあまりしない。逆に負けた時には、なぜ負けたのか、何がよくなったのか、原因を考え

対策をする。だから負けた方が勉強になる。」

「自分の意見と違うなどか自分の価値観と合わないんだよって思った時に、そういう考え方の人もあるんだとか、知らなかったとか面白いなって思って受け入れて、その後どうしようって考えられる人が成長していく。」

「シンプルに『まずやってみる(始めてみる)。物事を始めるとき、準備をしてからと考えることがよくある。でもその準備がなかなか進まない。準備が整う日なんて一生来ない。だから、まずやってみることが大事。』などの言葉です。」

どの言葉も私にはなるほどと納得のいく内容だったので、すっと気持ちに落ちたように感じました。特に「まずやってみる」は、2年前に全校集会で話した内容と同じだったので、改めて二中学生にも伝える機会を作りたいと思いました。講演時間約90分、有意義な時間を過ごすことができました。

1年間、ありがとうございました。

保護者の皆様におかれましては、今年度もたくさんのご協力とご支援をいただき、誠にありがとうございました。

14日には、196名の3年生が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げますとともに、子供たちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々へ厚くお礼申し上げます。

また、1・2年生も1年間の総まとめに取り組んでいます。進学・進級への大切な残りの日々、変わらぬご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

今年度の学校だよりは、本号をもって最終号となります。次年度も第二中学校をどうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



《学校教育目標》

自ら学び、深く考える生徒 (知)
心豊かで、思いやりのある生徒 (徳)
たくましく、健やかな生徒 (体)

蕨市立第二中学校

電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：<https://daini-j-warabi.edumap.jp>
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp